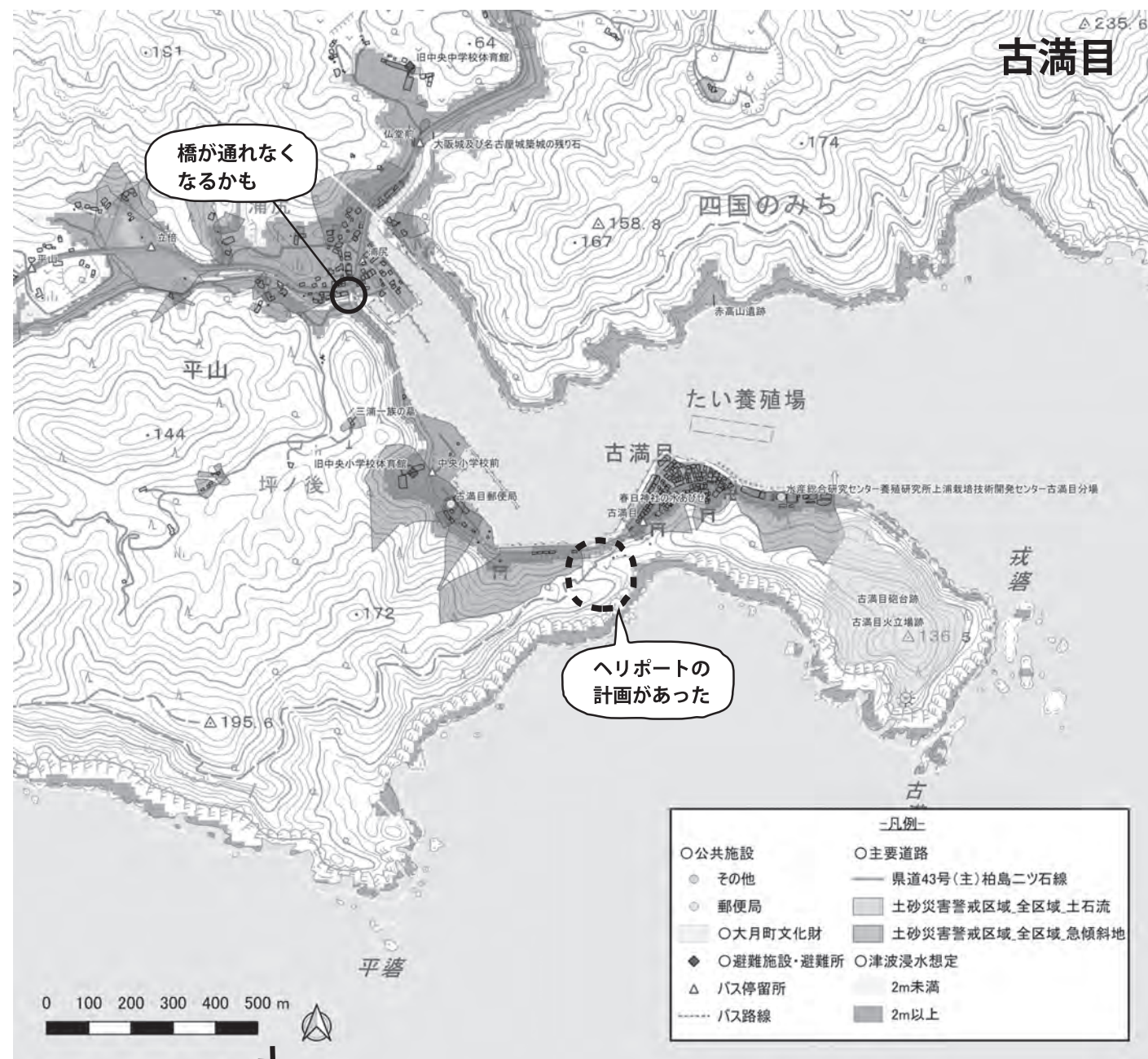




『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。

※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

	令和 6 年度	令和 7 年度		令和 8 年度	令和 9 年度
計画策定の取組	→				
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第 1 回（今回） 地区の状況を共有する	第 2 回（仮） 復興目標を考える	第 3 回（仮） 土地利用を考える	第 4 回（仮） 地区での準備を考える	パブリックコメント

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel : 0880-73-1140 Fax : 0880-73-1380



ホームページ



OTSUKI_JIZENFUKKO

大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやインスタグラムで発信しています！ぜひフォローしてください！

大月町
事前復興
まちづくり
かわら版

古満目

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。
地区についてたくさんの意見がでました！

2024 年 12 月 6 日（金）19:00～21:00、古満目交流センターにて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイディアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



令和 6 年度から 8 年度まで事前復興の取組として、沿岸 18 地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和 5 年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸 18 地区において、令和 9 年度の計画策定を目標に、令和 6～8 年度までの 3 年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 古満目の担当職員の紹介

令和 9 年度の計画策定にむけ、4 名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



西村 一真



市吉 紗也



坂本 有志



原 広志

古満目地区担当の市吉です。座談会の中で、地区に住んでいながら知らない事も多くありました。今後、事前復興を考えていく中で地区の皆さんと一緒に色々な事を検討していけたらと思います。よろしくお願いします。

皆さまと話し合った内容を
2～4 ページにまとめています。

自然環境が良い！

良さ

- ・景色がよい（夕日がきれい）
- ・魚がおいしい

産業のこと

良さ

- ・漁場がある

課題

- ・観光客の受け入れも厳しい

アイデア

- ・雇用先を増やす
- ・漁業の加工場を作る

水浴びせのこと

良さ

- ・水浴びせが続いている（地区の祭りが続いている）
- ヒビセキさん火の神様火事が起こらように水浴びせを行う1月2日

課題

- ・おみこしもあったが担ぐ人がいなくなった
- ・祭りが減った（担い手不足）

アイデア

- ・祭りの広報をする（担い手を集める）
- ・水浴びせなどの行事があるときは地区でご飯を用意したり集会所にお風呂を用意したりする

暮らしのこと

良さ

- ・地区住民仲が良い
- ・区長の人柄がよい
- ・お互いの情報を知っている
- ・近所付き合いがある
- ・助け合いができる
- ・郵便局がある

課題

- ・若い人が少ない（高齢化）
- ・空き家が多い
- ・家同士が近いので倒壊したとき心配
- ・猫が多い
- ・土地が低い

アイデア

- ・人を集める（人口流出を減らす、町職員にも協力してもらう）

へら寿司が有名

良さ

- ・へら寿司が有名（網を縫っていた道具のへらとはり、へらに形が似ていたことから「へら寿司」）

アイデア

- ・へら寿司など家庭で受け継いでいく

防災について

良さ

- ・婦人会は毎年夜間の避難訓練を行っていた
- ・ヘリポートが作れそうな土地がある

課題

- ・生活を再建する力がない
- ・警報に慣れてしまっている
- ・津波による孤立
- ・場所によっては避難所も浸水してしまうかもしれない
- ・高台がない
- ・道が崩れてしまう
- ・非常灯がない
- ・土砂災害が怖い
- ・備蓄がない
- ・火事の延焼
- ・中央小学校が崩れないか心配
- ・ヘリポートを作る話があったが土地の持ち主と話し合いできず

アイデア

- ・ヘリポートを作る
- ・高台を造成する
- ・街灯を整備する（ソーラーなど）
- ・避難道にも明かりを整備する
- ・空き家の除去
- ・個人が避難場所の倉庫へ備蓄しておく

道路・公共交通のこと

課題

- ・地区内の道が狭い（あまり気にしていないけど）
- ・土砂崩れや橋が壊れて通れなくなるかも
- ・道が暗い

アイデア

- ・補助金を活用して整備する
- ・使える補助金を増やす
- ・町に協力してもらう

まちづくりの方向性

●住み続けられるまちづくり

仕事

- ・生業を再建していきたい

文化を伝え続けたい

- ・災害後、古満目で復興できたら、水浴びせなどの文化も再開したい

住むところ

- ・災害後もまた古満目で生活したい
- ・少し距離があっても安全な高台があるといい
- ・高台を造成する

- ・応急住宅を建てる
- ・3D プリンターで住宅の模型を作る防災

- ・地区全体で話し合えるようにする

